NIE実践報告

1．タイトル：**「学ぶ」きっかけをつくり、「学び」を広げる新聞**

2．学校名

神奈川県横浜市立荏田西小学校

3．実践者名（代表者名）

阿部　一平

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語科　総合的な学習の時間　40人

6．単元（本時の学習課題）名

ハンセン病の記事を通して

7．目標(狙い)

ハンセン病の歴史や調べた事実を通して、「人権」についてそれぞれが意見をもち、考えを深めることができる。

8．評価の視点

調べた事実をもとに自分の考えをもち、伝えることができるか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

ハンセン病の記事を通して　3時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「人権」から思い浮かべる言葉を連想し、関連する新聞記事を選んでみよう。
⇒児童には1週間ほど前から声をかけ、記事を集めさせておく。
②ハンセン病の記事を読んで疑問に思ったことを伝え合おう。
⇒児童の疑問や意見を板書で整理する。
③ハンセン病について調べよう。
⇒関係する団体や機関を確認し、児童が連絡などできるように準備しておく。
④ハンセン病を通して人権について考えよう。
※「ハンセン病」の記事との出合いが本単元の核となった。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

子どもたちは、5年生のときに学んだ水俣病や、歴史学習で戦争について学んでいたこととも結びつけながら、どうしてこのようなことが行われてしまったのか、人権とは何かと真剣に意見を伝え合う姿が見られた。

12．成果と課題

今年度の一番の成果は、年間を通して記事にふれる量を大きく増やし、その機会を継続してきたことで、「あの時の○○さんの記事には…　」「前の○○さんの記事とは違う…　」などと、子どもたちが自分の日常と記事を、または記事と記事とを、結びつけて考えることができるようになった点である。
「教室の中に新聞（記事）がいつもある」「日頃から記事を話題にする」こうした環境の中で、これからも新聞を通して、子どもたちの社会を見つめる確かな目を育て、広げていきたい。